

## 令和2年度 第1回SD研修会報告（FD・SD合同）

内 容	令和元年度の財政状況について
日 時	令和2年8月11日（火） オンデマンド方式で実施
場 所	オンデマンド方式で実施
進 行	
参加者	Faculty Staff
<b>議 事 内 容</b>	
<p>今回のSD研修会は、コロナウイルス対策感染防止対策としてオンデマンド方式で実施された。</p> <p>最初に山下学長から、コロナウイルス感染に伴う変更等に協力をしてもらった教職員に対し、無事前期を終えることができたことのお礼が述べられた。</p> <p>その後、「令和元年度の財政状況について」の資料に基づき説明を受けた。</p> <p>学園全体の学生生徒数、学納金に対する人件費の割合の人件費依存率、経常的な事業活動が安定的であるかどうかということ判断する経常収支差額について説明された。特に、経常収支差額は1億600万円で2年連続黒字であると報告された。また、最終的な利益があったかどうかを示す当年度収支差額は、プラス1億4千2百万円であり、校舎を建て替えたり設備を整えたりする時に必要な資金になる累積収支差額は約マイナス11億円となっている。今後、定員の確保のために良い教育を行い、受験生やその保護者に対して学校の魅力を発信し、教職員が一丸となって知恵を絞っていき、本学を盛り上げていきたいと話された。</p> <p>引き続き法人本部の長利総務部長から、決算の主要項目を5年間分時系列で並べた資料に基づき説明を受けた。</p> <p>この中で最も大事な項目が、経常収支差額であり、3年連続赤字かつ外部負債が大きい場合は、文部科学省の経営改善指導が必要になってくる。本学園の場合は、直近の3か年のうち2か年が黒字になっていることを強調された。繰越収支差額累計は、平成27年度に約28億円あった累積赤字が令和元年度には約11億円まで減っている。</p> <p>本学の場合は、経常収支差額と基本金組入前当年度収支差額は2年連続で黒字であり、当年度収支差額は、今年は黒字であるが、その前の3年間は赤字であると説明された。早く収容定員の600人を達成し、学納金収入を増加させ、過去の負債を取り戻すことが必要になると話された。</p> <p>次に、「事業活動収支内訳表」の資料説明では、補助金の終了や競争的補助金獲得のハードルが上がっていることから、今後の補助金収入は減少することが予想されると話された。</p> <p>最後に、「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分（法人全体）」の資料説明では、本学園は去年まではB0のイエローゾーンの予備的段階に位置していたが、経常収支差額が2年連続黒字になったことから、今年は正常状態のA3にワンランクアップしている。A3とは、教育活動資金収支差額・経常収支差額がともに3か年のうち2か年以上黒字だが最新決算での黒字幅が10%未満で、黒字幅が小さく、施設設備の拡充や借入金返済の財源が十分に生み出せない状態をさしていると説明された。</p>	